

No. 1336

人気を呼ぶ児童博

—愛知・長久手—

8月1日から一ヶ月間。愛知県の愛知青少年公園で開かれている児童博。夏休み中の小学生たちが連日つめかけ、会場は超満員。各パビリオンへの入場が待たされるありさまです。

「世界と日本こども展」は“わが子への愛を世界のどの子にも”をテーマとした世界のこども館を中心に国際児童年劇場、青少年劇場および公園劇場などいろいろな催しが行なわれています。世界のこどもたちの生活環境を示した展示の前では自分たちと異なる子供たちに驚きを現わす子供たちもいます。人類の文明を支えるエネルギー。遊んでいるうちにエネルギーの知識が身につく。たのしい展示もあります。150万人の入場者を目指す児童博、今人気を呼び大賑わいを見せています。

奥美濃の夏

奥美濃の山々に抱かれた岐阜県郡上郡八幡町。昔ながらの古い家並が今も城下町の風情をとどめています。豊かな自然と歴史に恵まれたこの町はいま観光シーズン真盛り。訪れる観光客で賑わいを見せていました。涼しさを呼ぶソーメン流し。味の民芸品と言われるだけにこの地方のソーメンの味はまた格別、連日家族づれなどで超満員の人気。次から次へ流れてくるソーメンに舌づつみを打っていました大滝鐘乳洞に一步足を踏み入れるとそこはもう別世界。約1kmにわたって豊富な鐘乳石群が多彩な色どりをみせ、自然の造り上げたモニュメントに圧倒されます。

8月10日夜「第20回中日郡上おどりコンクール」が八幡町と中日新聞社の共催で行われました。コンクールには地元八幡町をはじめ県内から踊り上手約100人が参加しました。いずれも腕に覚えのある人ばかり、審査員もひと苦労。結局、審査の結果郡上おどり日本一には岐阜県御嵩町の今井弘子さんが選ばれました。コンクールのあとは観光客も参加して、大郡上おどり大会。この郡上おどりは寛永年間、時の郡上藩主遠藤慶隆が領民の融和をはかるため奨めたのがはじまりだと言われ、今では無形文化財に指定されている。

7月7日の郡上「おどり発祥祭」でスタートし8月13日から4日間の「徹夜おどり」をヤマ場に9月8日の踊り納めまで夏の夜を31夜にわたって踊りつけられます。